

# 森とともに生きて… 信仰の山

森下 恵介 (奈良市埋蔵文化財調査センター所長)

国土の大半を山地が占める日本列島において、山に対する自然崇拜と仏教は融合し修験道を生み出しました。神霊の鎮まる山は本来、人間がみだりに立ち入る世界ではなく、限られた浄行者のみが近づける神仏の世界でした。科学技術の発展によって、ともすれば人間が驕りに陥りやすい現代こそ、信仰の山と自然を畏れ敬う山岳信仰から学ぶべきことは多いといえます。

## 日本人はいつから山に登ったのか

スポーツや武道で「山に籠って修行」すれば、なにやらものすごく上達し、達人になれるようなイメージを私たちはもっています。これは山という自然の高みが日常の生活空間である里から離れ、神聖な空間、霊地とみられたことと無関係ではありません。

火煙を噴き上げる火山、天空近くに雄偉な姿が仰がれる高山、そそり立つ岩峰や奇峰、樹木に覆われた端麗な山容、こうした自然の中に私たちの祖先は神の存在を感じました。山に対しての信仰は狩猟採集に依拠した縄文時代には、自然の恵みを与えてくれる山の神の信仰、これは地母神としての女神であった

とみられています。稲作農耕が行われる弥生時代以降は、山は農耕に不可欠な水源として山の神霊は水の神、農耕神として信仰されたと考えられます。特に山の絶頂は神の居所として崇敬畏怖され、立ち入りは禁忌であったとみられています。稲作農耕が行われる弥生時代以降は、山は農耕に不可欠な水源として山の神霊は水の神、農耕神として信仰されたと考えられます。特に山の絶頂は神の居所として崇敬畏怖され、立ち入りは禁忌であったとみられています。

三輪山(四六七m)は円錐形の整った山容をもつ「神奈備山」で、大和一円の信仰を今も集める大神神社の「神体山」とされますが、その信仰は山麓の祭祀遺跡から確実に古墳時代まで遡ることは明らかで、平地から神々の世界である山を仰ぎ祀るという古い信仰のあり方を今に伝えています。こうした尊い神霊

参る山ともなっています。日本人が山頂に登るのは近世以前には信仰目的に限られていたと言ってもよいでしょう。

## 信仰の山と神聖性

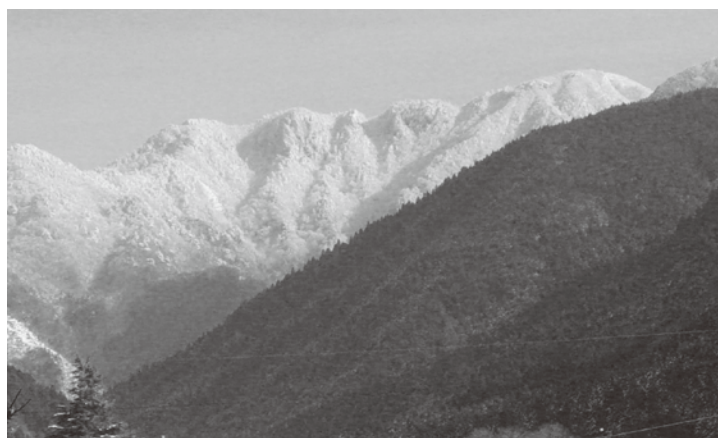
霊山や名山と呼ばれる山は信仰の山である以上、神仏の世界と俗界との結界が存在し、この結界を越えるためにはなんらかの宗教的な規制や禁制が存在しています。山に入る前の精進潔斎、水垢離や禊などもこのひとつです。神仏の世界に入るためには身も心も清浄にして神仏に近づく資格が求められるわけです。こうした制約や禁制が無く、誰もがいつでも登れる山ならば山の神聖性は存在せず、信仰の山にはなりません。神聖性というもの

はこうした禁忌、禁制があつて保たれるものと言つてよいでしょう。近代アルピニズムは悪魔の世界である山岳空間をキリスト教の力で征服するといった西洋文明が生み出したものですから、山の神仏の存在を否定します。山は人間に征服される単なる隆起した自然地形としかみませんので、明治以降に始まる近代登山は日本の霊山、名山の多くを「ただの山」にしてしまいました。

十世紀の中国で記された『義楚六帖』には吉野金峰山(大峯山)の記述があり、女人が登れないこと記しており、男子が登る場合は三ヶ月の酒肉欲色を断つことが求められるとも記しています。この「女人禁制」について

はさまざまに議論されるところですが、古代においては邪馬台国の女王卑弥呼のように女性が神の託宣者として宗教上も高い地位を占めていたことは確かです。女性の入山禁制の理由は女神である山の神が同性を嫌うという信仰に基づくといった説もあり、仏教戒律を起源にするともされていますが、近世には不浄である女人は清浄な山には入れないといった女性蔑視から理由づけられていたこともまた事実です。古代において神仏の世界である山は男女を問わず人の立ち入りそのものが禁制で、人の踏み入る余地などありませんでした。禁忌、禁制と信仰の山は不可離のもですが、性別の規制ではなく、入山時の精進潔斎や登拝時期など宗教的な規制によつても霊山の神聖性は確保できるようにも思われます。

日本人はともすれば信仰や宗教には鈍感で、正しい考えであっても自らの思想を強引に押し付け、人の信仰を踏みこむような行動は褒められるものではありません。科学技術の発展により私たちは多くの恩恵を受けていますが、終には自らの生存を脅かす力さえ持つようになつてしまいました。それでも自然の猛威の前には人間の力など無力です。驕慢を捨て、謙虚に自然を畏敬してきた山岳信仰から学ぶべきことは、多いといわねばなりません。吉野大峯が世界遺産に登録され、人類普遍の価値が国際的にも認められたのは信仰の山であるからだということを、今一度思い起こしたいと思ひます。



冬の太峯山



太峯山の女人結界門



太峯修行で行われる「西の覗」